

令和 5 年度 第 4 回沖縄県がん診療連携協議会 小児・AYA 部会 議事要旨

日 時：令和 6 年 3 月 4 日（月） 14：00～15：30

場 所：WEB 会議

構 成 員：19 名

出 席 者：11 名

大畑尚子(中部病院血液・産科)、伊良波史朗(南部医療センター・こども医療センター放射線科)、比嘉猛(南部医療センター・こども医療センター小児科)、屋宜孟(南部医療センター・こども医療センター小児血液・腫瘍内科)、岩崎政志(森川特別支援学校)、徳元亮太(沖縄がん教育サポートセンター)、外間早紀子(沖縄県保健医療部健康長寿課)、浜田聡(琉大病院小児科)、銘苅桂子(琉大病院産婦人科)、森島聡子(琉大病院第二内科)、増田昌人(琉大病院がんセンター)

欠 席：8 名

山本真充(南部医療センター・こども医療センター小児看護専門看護師)、中里哲郎(南部医療センター・こども医療センター血液・腫瘍内科)、金城敦子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、宮平有希子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、比嘉泉(琉大病院看護師)、金城正樹(沖縄県教育庁保健体育課)、崎間恒哉(沖縄県教育庁県立学校教育課)、當銘保則(琉大病院整形外科)

陪 席 者：1 名

石川 千穂(琉大病院 がんセンター)

【報告事項】**1. 令和 5 年度 第 3 回小児・AYA 部会 議事要旨(10 月 16 日)**

浜田委員より、資料 1 に基づき報告があった。

2. 令和 5 年度 第 1 回妊孕性温存療法 WG 議事要旨(9 月 13 日)

銘苅委員より、資料 2 に基づき報告があった。

【協議事項】**1. 次年度の委員及び部会長、副部会長の選任について**

資料 3 に基づき審議された。次年度の部会長及び副部会長(2 名)は、浜田委員、銘苅委員、森島委員が引き続き務めることとなった。今期で退任となる山本委員の後任候補の看護師(南部医療センター・こども医療センター)へ事務局から連絡することとなった。また、本人にはまだ承諾を得ていないが、増田委員より乳腺外科の先生の推薦があり、承認された。浜田委員より固形腫瘍に関する移行医療の観点から、中部病院の腫瘍内科医から入って頂けないかと提案があり、事務局から中部病院へ相談することとなった。

2. 第 4 次沖縄県がん対策推進計画(協議会案)における所掌分担について

増田委員より、資料4に基づき、がん計画の分野分けについて説明があった。小児・AYA 部会は、小児がん、AYA 世代のがん、妊孕性温存療法、がん教育(こちらは協議会のサブとして)を所掌する。

3. ロジックモデルを用いての次年度の活動計画について

増田委員より、資料5-(1)と当日資料5-(2)に基づき、説明があった。今後は、割り当てられた分野の進捗評価を、幹事会では文書で、協議会では原則、部会長が口頭で報告する。部会としてどういう活動を行うか、委員から意見をメールで募り、3月末までに2024年度の活動計画を決定する予定である。

4. 所掌分担分野の指標値の確認と評価について

増田委員より説明があった。今回は、フルロジックモデルに指標値が殆ど入っていないため次回部会までにベンチマーク部会の方で数値を入れてから、小児・AYA 部会委員で評価を行っていく。小児がん患者体験調査のデータや、がん種を絞り込んだ小児及びAYAの5年生存率を入れる予定である。

5. AYA サポートチームの構築について

増田委員より、資料7に基づき提案された。現時点では、AYA 世代支援チームの構築は現行の指針では努力目標となっているが、次回の改訂の際は義務となる予定とのことだった。

6. 若年がん患者在宅療養生活支援事業(沖縄県若年がん患者等支援事業)における部会の取り組みについて

7. アピアランスケア支援事業(沖縄県若年がん患者等支援事業)における部会の取り組みについて

増田委員より、資料8に基づき情報提供と周知依頼があった。

8. アピアランス支援モデル事業と次年度の活動について

増田委員より、資料9に基づき、アピアランスケアのモデル事業として開催した研修会の報告があった。次回開催日程は6月とのことだった。

9. 次回開催日程について

令和6年度第1回部会は、6月開催の予定である。

【報告事項】

3. 小児・AYA 部会 委員一覧

浜田委員より、資料3に基づき、報告があった。次年度の委員候補については、協議事項1で審議された通りである。

4. 「妊孕性温存療法」と「がん治療後の生殖医療」WG 委員一覧

銘苅委員より、資料10に基づき、報告された。腫瘍担当の医師が、妊孕性温存について悩んだときには、産婦人科の医師や琉大へ相談できやすいような体制となっている。

5. 妊孕性温存療法について

(1)妊孕性温存療法研修会について

銘苅委員より、資料 11-(1)に基づき報告があった。

(2)県の助成について

外間委員より、資料 11-(2)に基づいて報告があった。増田委員より、表の内訳について、琉大、友愛医療センター、県外の施設に分けて報告が出来ないかと提案があった。また、銘苅委員からも、施設別でどのくらいの割合で凍結が行われているかを把握することは、連携という意味では重要かと思われるので、検討をお願いしたいとの発言があった。外間委員からは、個人情報の特定等、懸念される点もあるので、一度持ち帰って検討するとのことであった。

(3)琉大の実績について

銘苅委員より、資料 11-(3)に基づいて報告があった。29 ページの表に示した数値は、県へ提出する資料を発行した数が示された表であるということで、増田委員から、がん対策上の観点から、琉大からは実際に治療が行われた数を、県からは助成が下りた件数を提示して頂けないかと依頼があり、承認された。

(4)がん治療施設について

銘苅委員より報告があった。資料 11-(4)のとおり、銘苅委員講師の研修会が開催された施設が順次追加されている。

6. メーリングリストの立ち上げについて

現在、事務局の方で妊孕性温存療法 WG のメーリングリストを作成し、WG 委員に参加してもらっている。

7. 助成金申請時のアプリ登録 100%に向けた対応について

銘苅委員より、資料 10 に基づき、報告と提案があった。妊孕性温存療法の助成を受けるときの条件として、JOFR に登録する事になっているが、学会によると登録が 50%未満となっていることが問題となっているとのことだった。銘苅委員より、確実な登録確認のための資料（資料 10）を助成申請資料一式に追加し、JOFR への登録やアプリである「FS リンク」のインストールができていないことをチェックできないかと提案された。（資料 10 の下段部分に直筆でのサインがない=未登録ということになる。）外間委員より、昨年 5 月より申請の様式が変更され、アプリ番号を記載する項目と、アプリ番号を記載できないのであればその理由を記載する項目があったと思われるので（アプリ番号が記載されている=登録ができていない。）、申請様式を再確認し回答するとのことだった。

8. OCJpn 全国ワークショップ開催の報告(1 月 12 日)

銘苅委員より、資料 13 に基づき、報告があった。ワークショップの中では、各地域に分かれて、九州・沖縄の現状について情報交換が行われた。今後、メーリングリストの作成等、沖縄県としてできることを妊孕性温存療法 WG の中で詰めたいとのことだった。

9. 第14回日本がん・生殖医療学会学術集会開催の報告(2月10日～11日)

銘苅委員より、資料14に基づいて、報告があった。薬剤師と行政との連携について多く議論されたとのことだった。今後、妊孕性温存療法WGに薬剤師の方に加わって頂く予定である。

10. 第19回小児がん拠点病院連絡協議会

増田委員より、資料15に基づき、報告があった。

11. 学校における外部講師を活用したがん教育の推進に向けた取り組みについて

増田委員より、資料16について報告があった。

12. その他

増田委員より、5月開催の「第6回AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会」について情報提供があった。

以上